市民の声・座談会

生活の無駄をなくそう

カラの財布の自衛策

「消費は美徳」から「節約運動」へ。お上の発想の転換に国民は財布のヒモをしめたりゆるめたり。

消費ブーム、物不足、節約運動。

消費ブームで誰かがもうけ、モノ不足で物価は高騰。そうして上った物価の抑制に国民は節約をしいられる。

何を今さらと腹をたててみても台所をあずかる主婦にしてみれば、要はキンチャクの問題である。この狂乱物価で財布がすぐカラになるなら無駄をはぶくしか仕方がない。

今日の広報座談会は婦人会のみなさんに庶民のささやかな自衛策として、「生活のむだをなくそう」を話しあってもらった。

成人式に着物はいるのか

■成人式で着物の是非がよく議論されますが、今年でしたか、宿毛市で着物きて来た者は会場に入れないということで問題になった。結局、中止になりましたが――。

▼私の家の実例を申しますと、よそで着物を着せていても、自分の家ではよう作らない。成人式になると、二カ月も三カ月も前から頭を痛める。

▼成人式には皆が行くのだから、着物を着れない人は、結局、欠席しがちになる。そういう差をつけないために、みんなが行けるように、ハデにならない方がよい。

■実際問題として、それができるでしょうか。

▼私はこの問題はあまり考えたことないんですが、やはり自分の子供には着せてやりたいと思う。着物を着ないようにしようという話がまとまれば守りますが――。

▼きれいに着せてやりたい母の心はわかりますが、この頃は豪華な総刺しゅうの物になっていますから。

▼今、何十万もしますからね。

▼親にとってはかなりの負担です。親の権威を見せたい、あるいは娘自身が着たいこともあるでしょうが――。

▼成人式は青年のことだから自覚に訴えるのが一番よいことだと思うが、着物をやめようと決めておいても、実際は守られていない。かなりアピールもしました。ダンスをするなど工夫をしましたが。

▼私、思うんですが、成人式をお盆とか夏暑い時にすればどうか。

▼私の娘は今年成人式でしたが、学生で県外にいるでしょう。一月では成人式に出れないわけです。

▼同級生など皆こちらにいますからやはり一月じゃなくて、夏休みなど利用してやってほしい。

▼夏にやれば「簡素」という面は実現できるかもしれないが、一月でそれができたらたいしたものだ。

▼私はこの問題をおしつけても無益だと思う。

▼個人差がありますからね。

▼皆苦労していますよ。「どこそこは洋服じゃ、おおくつろいだ」といって、一生懸命連絡とりあっている。

▼個人個人が勇気をもって、一人がやめれば、「あそこがやめたからうちもやめる」ということになって広がってゆく。誰かがやめないと。

▼成人式の簡素化については、宿毛市でこれがくずれたのは呉服屋の反対があったからだということを聞いた。

成人式の日に着物を着てゆくというのは主催が市と連合青年団である以上、問題があると思います。市の公的機関がやっているから着物を着れない人は出席しにくい。成人式を青年たちが受身の型でかしこまってやるから着てゆくことになる。いつだったか「今度の成人式はいよいよ面白くなかった。人形みたいにすわっているだけだった」という声を聞いたが、青年が能動的にプランをたてて、着物きてくるとやれないようなゲームとかフォークダンスなどを企画する。そうして主体的な成人式に切りかえてゆかなければいかんと思うわけです。

今や新郎もお色なおし？

■最近、公民館での結婚式はどうですか。

▼ぼつぼつありますね。

▼しかし、二重ですね。高知でやっておいて部落にかえって公民館を利用してまたやる傾向がある。不経済ですね。

▼高知でやる場合は、仕事は休んでゆかないかん、髪もセットしなきゃいかんから……。

▼つきあいの多い人が高知なんかでやるでしょ。

▼結婚というのは当人どうしのことです。にもかかわらず、昔風の家と家とのおつきあいということで新郎新婦と関係のない人まで呼ぶ。若い人中心に考えればそんな必要はないんですが。

▼しかし、最近は本人同士はそんなにこだわっていませんね。私の所なんかも式は大阪でして、旅行の帰りに近所の人に顔見せてというと、「お人形あつかいしないでくれ。時間がないから省略してくれ」というからやめました。当人をたてるのならそれが本当です。あっちこっちで人に見せるために着せられて、親のために……。

▼あそこに招かれたから呼ばないかん、ということで客がふえる。

▼ふうたいを入れて式をするのが今まで働いた親のたのしみですから（笑）

▼最近は新婦だけでなく、新郎も二度、三度、色なおし　しますからね（笑）

▼結婚式場へ行けば何々家と何々家の結婚式と書いてあるでしょう。家と家との考えというのは戦後民法でなくなっているのです。二十歳になれば自由に結婚できる。しかし、それがまた復活してきて、家と家との婚礼――。

その次に案内状。結婚する本人同士が「来てください」というのでなく、親が出していますね。主体性のない結婚を親のために家がする、という古さが復活している。

出席者

▽五百蔵貞（下野田）
▽岡林政衛（西島）
▽村田昭子（稲生）
▽久保博子（後免町）
▽小松千代（下唐内）
▽岡崎登志（八京）
▽田島昭子（小籠）
▽佐竹安意（黒滝）
▽田岡公害環境課長
▽広報委員

PTAの活発な廃品回収

■昔は大掃除をやっていた。家の中には使えるものが必ずあるんじゃないか。

▼稲生の小久保部落は去年から不用品交換会をはじめて、これまで三回やりました。値段は本人の希望をつけて出す。タンスからオートバイまで出ます。公民館に五百もらって後の九十五％は本人に渡す。とっても好評です。

▼今はどこのPTAでも廃品回収をやっていますね。新聞、雑誌、ぼろきれ、ダンボールなどなんでも出てきます。私の所は大型トラック二台で十万八千円ありました。

▼廃品回収というのは今や高知市南国市の小学校の重要な財源です。もう十年ほど前から。

▼保育所では、ストローとか菓子箱や包装紙等を教材として使っています。それでいろんなものを作って美術的感覚や創造力を養うんですね。もうすぐプール遊びがはじまるんですが、マヨネーズのカラなんか水鉄砲として使えます。――というように保育所で危険でないものならなんでも使えるんです。

▼今、小、中学の教科書は無償だそうですが物を大事にする意味で新しいものは二、三年使えばどうでしょう。

▼しかし、教科書会社がもうけなければなりませんからね。改訂するでしょう。改訂したら古本は使えません、とくるから。だから新しいものに代えなければならないわけです。

▼私は、病気見舞はなるべく遠慮するようにしている。病気の時にガタガタ来られると療養にならないから、私はなるべく行きません。

▼「あそこな人は見舞に行ったそうな。うちもはよう行かんと退院するかもしれん」（笑）

▼私が部落長をやっていた時には金を集めて代表者がいくようにしていた。

▼よくなって退屈して見舞に来てほしいと思う頃には、誰も来てくれない。（笑）

▼入院したら行かないかんというけれども、家でねている時はいきませんね。

小さいことから具体的に

▼生活の無駄をなくそうという時に無駄をさせているのは何かということなんですね。ひきでものをやめると陶器屋がこまる。冠婚葬祭に花輪をやめると花輪屋がこまる、成人式を簡素にすると呉服屋がこまるということは「消費は美徳」ということを政府がやっているんだから、それに対抗して無駄をなくそうというのは相当抵抗があるわけです。

▼政策的にやってきておいて、今さら節約しろといわれると反発したくなりますが、要はキンチャクの問題ですから、空っぽになるといやでもそうしなければならん、おしよせてくる消費経済にたちむかうためにはどうしても小さいことから具体的にやってゆくことが大事でしょうね。

▼こう言ってはなんですが、「無駄をなくそう」というのは消極的な運動ですよね。その中で企業だけの運動も必要ではないでしょうか。たとえば卵を買いにゆく時、パッケージをもってゆけばいくら安くしてくれるとか、そんな交渉もしたらどうかと思う。

▼たとえば、無駄をなくそうということではじめても、「書いてまわしてくれ。そうでもしてくれないとうちではやめられない」というんですね。広報でそういう面を大いにアッピールしてもらいたい。

■本日は、おいそがしいところ、ありがとうございました。